

令和5年8月4日14時00分
近畿地方整備局
紀の川ダム統合管理事務所

大滝ダム10周年アニバーサリープロジェクトのポータルサイトを開設！

～運用開始10周年の大滝ダムで、アニバーサリーイベントを開催。

大滝ダムや水源地である川上村の魅力や様々なイベント情報を掲載します。～

- ◆大滝ダムと水源地である川上村の魅力を発信し、多くの方に、「来て、見て、体験」していただくため、イベント情報を掲載するポータルサイトを開設します。
- ◆大滝ダムは今年、運用開始から10周年を迎えます。この機に、ダムならびにダム水源地のこれからを考え、大滝ダムの役割やダム所在地である川上村の魅力や、未来を担う方々に伝えていくために、「アニバーサリープロジェクト」を実施します。
- ◆今後も、地域の方々と一緒に継続的な湖面活用を図り、持続的な地域振興に繋げていきます。

○開設日時 令和5年8月4日14時

○ポータルサイト <https://otakidam-10th-ap.jp/>

ポータルサイトによるイベント情報の公開は令和6年3月までの限定公開となります。

○掲載予定情報

- ・ 大滝ダム運用管理開始10周年アニバーサリー・川上村のイベント情報
- ・ 大滝ダムの役割の紹介
- ・ 川上村の魅力紹介
- ・ 紀の川水系関連情報

<取扱い> _____

<配布場所> 近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、奈良県政記者クラブ、
五條市政記者クラブ、和歌山県政記者クラブ、和歌山県政放送記者クラブ、
和歌山県地方新聞記者クラブ

<問合せ先> 紀の川ダム統合管理事務所 電話 0747-25-3013(代表)

副所長 おきつ 沖津 よういち 洋一(内線202)



大滝ダム10周年記念催事

ポータルサイトイメージ

HPの内容は変更となる可能性があります。

大滝ダム10周年アニバーサリープロジェクト



主催 大滝ダム10周年アニバーサリープロジェクト実行委員会

大滝ダムは今年、運用管理開始から10周年を迎えます。10年を機に、ダムとダム水源地のこれからを考え、「大滝ダムが果たしてきた役割」や「ダム水源地川上村」の魅力、未来を担う方々に伝えていく必要があります。このため、地域の方々といっしょに継続的な湖面活用等を図り、持続的な地域振興に繋げていくため、今年1年、「アニバーサリープロジェクト」を実施していきます。



紀の川の歴史

大滝ダムの建設

大滝ダムの役割

特別イベントのお知らせ

アクセス

紀の川ダム統合管理事務所／川上村

Google 提供



TOPICS

- 2023年7月xx日 大滝ダム10周年アニバーサリープロジェクトのポータルサイトを開設しました。大滝ダムや川上村のイベント情報等を一挙にお届けします。
- 2023年7月xx日 大滝ダム10周年アニバーサリープロジェクトのロゴマークです。
- 2023年7月xx日 10thサテライトイベントとして、奈良県と和歌山県にて、「大滝ダム出張展示会」を開催します！詳細はこちらをご覧ください！

紀の川関連催事 和歌山河川国道事務所

TOPICS

- 2023年7月xx日 紀の川は国による河川整備を開始して100周年を迎えます。令和5年度は1年を通して様々なイベントを実施します。
- 2023年7月xx日 紀の川直轄改修100周年記念ロゴマークが決定しました。
- 2023年7月xx日 紀の川大堰は20周年を迎えます。

イベントカレンダー

前月 2023年7月 次月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

国土交通省

国土交通省 川の防災情報

国土交通省近畿地方整備局 紀の川ダム統合管理事務所

ライブカメラ 大滝ダム LIVE

国土交通省 紀の川ダム

大滝ダム字べる 防災ステーション

国土交通省近畿地方整備局 和歌山河川国道事務所

川上村

森と水の源流館

匠の森

かわかみ 源流ツーリズム

川上村観光協会

10th

水ときらめき紀の川館



《所在地》

奈良県吉野郡川上村大滝

《諸元》

ダム形式	重力式コンクリート
ダムの高さ	100m
ダムの長さ	315m
ダムの堤体積	1,030 千 m ³
湛水面積	2.51km ²
総貯水容量	84,000 千 m ³



■事業の主な経緯

- 昭和34年 9月 伊勢湾台風 紀の川流域内で甚大な被害
- 昭和35年 4月 予備調査開始
- 昭和37年 4月 実施計画調査開始
- 昭和40年 4月 建設事業着手、紀の川水系工事実施基本計画策定
- 昭和63年12月 大滝ダム工事に着手
- 平成14年 8月 大滝ダム本体コンクリート打設完了
- 平成15年 3月 試験湛水開始
- 平成15年 4月 白屋地区に亀裂現象発生
- 平成15年 5月 試験湛水中断
- 平成17年12月 白屋地区地すべり対策工事に着手
- 平成20年 8月 迫地区地すべり対策工事着手
- 平成20年 9月 大滝地区地すべり対策工事着手
- 平成21年 2月 白屋地区地すべり対策工事が完成
- 平成23年 3月 迫地区地すべり対策工事が完成
- 平成23年11月 大滝地区地すべり対策工事が完成
- 平成23年12月 試験湛水再開
- 平成24年 6月 試験湛水完了
- 平成25年 3月 大滝ダム竣工
- 平成25年 4月 大滝ダム本運用開始



昭和34年（伊勢湾台風状況） 奈良県吉野郡吉野町上市付近



昭和57年 和歌山県直川地区付近

大滝ダムは、洪水調節、水道用水・工業用水の供給、発電、流水の正常な機能の維持を目的とする多目的ダムです。洪水被害を最小限に食い止め、クリーンな水力発電を行い、奈良県・和歌山県の暮らしを支えています。

洪水調節(F)

下流の河道の整備状況から、当面最大1,200m³/sの防災操作を行い、下流における洪水被害の軽減を行い、治水安全度を向上。



防災操作を実施する大滝ダム

水道用水・工業用水の供給(WI)

奈良県、和歌山県、和歌山市、橋本市に対して水道用水、和歌山市に対して工業用水として水を供給。

(大滝ダムにおける利水流量分配図)



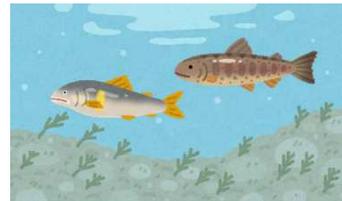
発電(P)

大滝ダムからの河川水補給を利用し、直下の関西電力(株)大滝発電所において、最大出力10,500kWの発電に利用される水を供給。



流水の正常な機能の維持(N)

雨の少ない時期(非洪水期:10/16~翌6/15)に、川に棲む生物や川が本来持っている環境に影響が出ないように下流に向けて放流することで川が持っている環境を保全。



平成30年度

- 台風20号に伴う豪雨により紀の川流域では、8月22日から24日にかけて、流域平均の総雨量が394.5mm、時間最大雨量が55mm(大台ヶ原雨量観測所)となり、大滝ダムへの流入量が約2,000m³/s(大滝ダム管理開始以降第3位)を記録。
- 大滝ダムでは、約1,100万m³の洪水を貯留し、ダム下流の紀の川の水位を五條地点(五條市新町付近)で約1.0m、三谷地点(かつらぎ町三谷付近)では約0.7m低下させる効果があったと推定。

五條地点(大滝ダムから下流40km地点)



大滝ダムの防災操作図

